



# 自衛隊員による 自衛隊員のための

新自衛隊中央病院規模 病床数 500床 医師・歯科医師 86 薬剤師 24 保健師・助産師・看護師等 279 診療放射線技師 17 臨床検査技師 24 その他の医療技術者 28 事務職員等 194(人)

このシンボルマークは新病院開院を記念して定めた自衛隊中央病院のシンボルマークです。全体的に患者さんが安心する丸のある形で表現しています。中央には3自衛隊の象徴である桜（陸上自衛隊）、イカリ（海上自衛隊）、翼（航空自衛隊）を配置し、共同機関である事を意味します。アスクレ庇オスの杖（蛇）は医学の象徴で使われています。背景には日本の象徴である富士山を配置することにより自衛隊医療の最高医療機関を意味します。



渡邊千之 中央病院長



新築なった中央病院への期待を述べる浜田靖一防衛大臣

## 自衛隊の中核病院として歩む

新病院の施設・設備	
病床数: 500床	
1床室	118室 25% (約21m <sup>2</sup> )
2床室	31室 13% (約25m <sup>2</sup> )
3床室	2室 1%
4床室	76室 61% (43m <sup>2</sup> )
* LDR2室を設置	
* 特別VIP室2室を設置	
* 感染症病床 10床	
ICUベッド数 8床 (熱傷浴室含む)	
手術室 8室 (無菌室2室含む)	
医療機器 PET等の高度医療機器の導入	
CTの増設 (4機: アンギオCT等を含む)	
建物設備	
・ 医療情報システム (電子カルテ)	
・ 大型ヘリポートの設置	
・ 免震構造による地盤対策	
・ 病床数の拡張 (500床→1000床)	
・ 大量傷者受け入れ時のトリアージシステム及び医ガス設備等の準備	
・ コ・ジェネシスシステムの導入	
・ 備蓄能力の保持 (燃料、水: 5日分)	

中央病院はオーブンを前に3月3日、世田谷消防署や地元の消防団らと火災訓練を行った。約20人の署員と一緒に医師・職員ら自衛消防団が7階から出火したことを想定し消火施設の点検や消火活動の訓練をつづけた。消防車10台やヘリコプターも出動して臨場感たっぷり、ヘリから吊り上げられレスキューによる7階からの救出場面もあった。「事故ゼロ」に向かってスタッフは一生懸命だった

建替えが計画されました。多方面の方々のご尽力を頂いて、計画策定から13年の月日を掛け、新自衛隊の経て老朽・狭隘化が進み、病院が漸く完成に到りました。これまでの年月をかけて、新自衛隊として建てらる初代自衛隊中央病院（現病院）は50年の歳月を経て、老朽化が進み、病院が完成しましたがこの時点では単なる建物ではなく、自衛隊員のための、自衛隊の象徴である桜（陸上自衛隊）、イカリ（海上自衛隊）、翼（航空自衛隊）を配置し、共同機関である事を意味します。背景には日本の象徴である富士山を配置することにより自衛隊医療の最高医療機関を意味します。

渡邊千之 中央病院長

渡邊千之 中央病院長